

かみす

Pick up

- ▶ 新型コロナワクチン3回目の接種
- ▶ 確定申告・住民税申告のお知らせ



ヤブムシクシ



オナガガモ



チヨウゲンボウ



コアシサシ



オオセツカ



ウグイス

野鳥の楽園

まちの魅力再発見

特集

水辺がもたらすパラダイス

「ピピピッ」「チチッチッ」。朝の利根川河川敷は、野鳥の鳴き声にあふれています。水辺が多いこのまちには多種多様な野鳥が集います。野鳥観察で大切なのは野鳥を驚かせないこと。だから今回はそっと紹介します。



メシロ



カワセミ



ミコアイサ

AR

広報かみすが
動き出す



[COCOAR]



アプリをダウンロードし
表紙にスマートフォンを
かざしてください。
詳細は16ページ

野鳥の楽園

水辺がもたらすパラダイス

何千km、何万kmも旅をする渡り鳥が、神栖市の水辺で羽を休め、繁殖し、また旅立っていきます。それはここが、温暖な気候に恵まれた水と緑の大地だから。今回は、実は身近な「野鳥の楽園」をご案内します。



飛ぶ宝石とも呼ばれるカワセミ[カワセミ科・全長14.2cm・留鳥]

四季折々、いろいろな野鳥に会える！

朝の目覚めとともに鳥のさえずりが聞こえると、爽やかな気分が一日が始まります。ところで皆さんは、鳴き声や姿から野鳥の名前がパッと浮かびますか？ とても身近な存在なのに、遠くの木に止まっていたり、大空を飛び回っていたりすると、じっくり観察するのは難しいもの。そのため、名前や特徴を覚える機会もなかなかありません。

でも、それではもったいない。日本には約580種の野鳥がいますが、そのうち市内で約260種も見られるのです。鹿島灘と利根川に囲まれた自然豊かな神栖市は、まさに野鳥

の楽園。遠くから来て繁殖や越冬をする渡り鳥(夏鳥・冬鳥)、通過するだけの旅鳥、季節によって移動する漂鳥、そして一年中よく見かける留鳥まで、四季折々にさまざまな野鳥を見ることが出来ます。また、海鳥や水辺の鳥が多いこと、絶滅危惧種や珍しい野鳥がいることも特徴です。もしバードウォッチングをしてみたいと思ったら、冬はおすすめの季節。渡り鳥や漂鳥など種類や数が多いだけでなく、落葉樹の葉が落ちて見つけやすくなります。特に水辺にたくさんいるカモは、探す苦勞もなく初心者でも観察を楽しめそう。そこで、さっそく神之池へ行ってみました。

冬の神之池でカモを観察

神之池では、数え切れないほどのカモが水面にのんびり浮かんでいます。池のほとりには、日なたばっこをしているカモたち。よく見ると、くちばしの形、頭の色、羽の模様などがいろいろあることに気がきます。やがて数羽が一行に並んでトコトコ遊歩道を渡り、広場の方へ歩いて行きました。

いつもよりちょっと注意深く見るだけで、野鳥への興味がどんどん膨

らんでいきます。もっと詳しく知りたくなって、波崎愛鳥会会長の柳堀弘さんに教えてもらいました。

「神之池のカモ類は、10月ごろに渡ってきて3月ごろまでいます。普通の年は5000羽くらいで、去年は少なくとも2224羽、一昨年は1万2639羽もいて一面カモだらけでした。昼間は池でゆっくり過ごし、夜になるとグループで飛び立って利根川の田んぼで餌を取り、夜明け前にまた戻ってきます」

波崎愛鳥会では毎年1月、神之池でガン・カモ調査をしています。数千羽にもなるカモを数えるだけで大変そうですが、何と20種ものカモを見分けながら数えていると知って

マガモのオスは頭が光沢のある緑色で首に白い輪がある
[カモ科・全長59cm・冬鳥]





①



④



③



②

①市内の野鳥観察ポイントは神之池、利根川河口(小見川大橋付近から河口までの葦原や干潟)、日川浜から波崎漁港までの海岸線と語る波崎愛鳥会の柳堀会長
 ②ミコアイサのオスは別名「パンダガモ」と呼ばれている[カモ科・全長42cm・冬鳥] ③体は緑色で目のまわりが白いメジロ[メジロ科・全長11.5cm・漂鳥]
 ④神之池にはカモの大群が飛来する



ユリカモメ。冬羽になると頭が白くなり目の後方に黒い斑点ができる[カモメ科・全長40cm・冬鳥]



コアシサシの求愛。砂浜に巣をつくって子育てをする[カモメ科・全長28cm・夏鳥]

「波崎漁港のカモメ類は、全国から大勢の愛鳥家がバスに乗って見に来るくらい有名です。11月ごろに渡ってきて3月ごろまでいます。数が多いだけでなく種類も豊富で見応えがありますよ。道路からも、防波堤の上にカモメがたくさんいるのが見えます」

太平洋に突き出した波崎漁港。その周辺は親潮と黒潮がぶつかる好漁場のため、餌となる魚を求めて多くの海鳥が集まってきました。冬場はカ

ました。

「波崎漁港のカモメ類は、全国から大勢の愛鳥家がバスに乗って見に来るくらい有名です。11月ごろに渡ってきて3月ごろまでいます。数が多いだけでなく種類も豊富で見応えがありますよ。道路からも、防波堤の上にカモメがたくさんいるのが見えます」

「非常に珍しいのは12月末から1月ごろに飛来するミコアイサ。目の周りが黒くパンダのような顔をしているので、パンダガモとも呼ばれています。以前は80羽以上いた年もありましたが、だいぶ減って去年はわずか5羽でした。ぜひ見つけてみてくださいね」

全国的に有名な波崎漁港のカモメ

神ノ池の他に、冬から春先にお

すめの野鳥観察

スポットを聞いてみ

ました。

「波崎漁港のカモメ類

は、全国から大勢の愛鳥家

がバスに乗って見に来るくらい有

名です。11月ごろに渡ってきて3月

ごろまでいます。数が多いだけでな

く種類も豊富で見応えがあります

よ。道路からも、防波堤の上にカモ

メがたくさんいるのが見えます」

太平洋に突き出した波崎漁港。そ

の周辺は親潮と黒潮がぶつかる好漁

場のため、餌となる魚を求めて多く

の海鳥が集まってきました。冬場はカ

驚きました。多いのはカルガモ、オナガガモ、コガモ、キンクロハジロ、マガモなどです。

「非常に珍しいのは12月末から1

月ごろに飛来するミコアイサ。目の

周りが黒くパンダのような顔をし

ているので、パンダガモとも呼ば

れています。以前は80羽以上いた年

もありましたが、だいぶ減って去年

はわずか5羽でした。ぜひ見つけて

みてくださいね」



ハジロカイツブリの群れ[カイツブリ科・全長33cm・冬鳥]

モメ類のほかカモ類も多く、ハジロカイ

ツブリの群れが波崎漁港に入ること

もあるそうです。

砂浜に巣をつくるコアシサシ

ところで皆さんは、冬の海岸に

行ったことはありませんか？ 2月か

ら3月ごろ、波打ち際にいるのはミユ

ビシギの群れ。波と戯れるように砂

浜を行ったり来たりしながら、ゴカ

イや貝などの餌を食べています。

マリンレジャーで人気の市内の海

岸も、愛鳥家にとっては貴重な野鳥

の観察スポット。波崎漁港から日川

浜までの海岸線では、一年を通して

さまざまな野鳥が飛び交っています。

注目は、絶滅危惧種のコアシサシ。

4月ごろから夏にかけて飛来し、繁

殖のため砂浜に巣をつくって子育て

します。2004年には波崎で国内

最多の534巣が確認され、何千羽

も群れをなして飛んでいましたが、



ミユビシギの群れ[シギ科・全長19cm・冬鳥/旅鳥]



北米に生息するアメリカコアシサシ。2014年、日本で初めて神栖市で確認された[カモメ科・全長23cm・夏鳥]

安心して営巣できる砂地が減って飛来数も激減してしまったといえます。波崎愛鳥会が長年にわたって取り組んでいるコアシサシの保護活動について、柳堀さんが話してくれました。

「コアシサシは砂浜に直接卵を産んでひなをかえます。それを守るため、巣がある場所に車やオートバイが乗り入れないように、県の土木事務所をお願いして日川浜海岸に柵と看板を設置してもらいました。また、

営巣地だった利根川河口の導流堤が撤去されることになったため、国土

交通省にお願いして2010年に人工

営巣地を整備してもらいました」

2014年には、国内で初めてア

メリカコアシサシが飛来。足環を見

ると、米国ノースダコタ州から約

9000kmもの距離を飛んで来たよ

うです。また2017年には、アメ

リカコアシサシとコアシサシの交雑

が確認されました。



コジュリンは全国的にも数が少ない。草原や葦原に巣をつくる[ホオジロ科・全長14.5cm・漂鳥]



利根川河川敷に広がる葦原が野鳥の生命を育む



冬はバードウォッチングにおすすめの季節



波崎愛鳥会の皆さん

野生の鳥は、病原体を持っている可能性があります。死亡した野鳥や排泄物には直接触れないようにしましょう。同じ場所でもたくさん野鳥が死亡していたら、鹿行県民センターや環境課へご連絡ください。

参考資料 『企画展 神栖町の野鳥』(歴史民俗資料館、『波崎の自然』(波崎町、『神栖市野鳥ガイドマップ』(波崎愛鳥会)

野鳥の鳥は、病原体を持っている可能性があります。死亡した野鳥や排泄物には直接触れないようにしましょう。同じ場所でもたくさん野鳥が死亡していたら、鹿行県民センターや環境課へご連絡ください。

神栖市で見られる絶滅危惧種はコアシサシだけではありません。利根川河川敷の高浜沖ノ洲から矢田部地区には広大な葦原があり、オオセツカ、コジュリンが繁殖しています。「4月から6月ごろにかけて、オオセツカの鳴き声がシャワーのように降り注ぎます。そこにコジュリンのさえずりが加わって、とても賑やかですよ。オオセツカは全国で2000〜2500羽しかいないと

され、神栖市は繁殖地の南限ともいわれています。葦原がなくなるとオオセツカもコジュリンもいなくなってしまうので、葦原の保全が重要です」
貴重な野鳥と自然を守るために
柳堀さんの話から、波崎愛鳥会は野鳥観察を楽しむだけでなく、野鳥の調査活動や営巣地の保護活動などを行っていることを知りました。そもそも柳堀さんが野鳥に夢中になったきっかけも、神之池のビオトープにカワセミの営巣地をつくる活動をしたことだったそうです。カワセミはその美しさから「飛ぶ宝石」とも呼ばれ、バードウォッチャー憧れの鳥なのだとか。そう聞くと、いつか自分の目で見つけてみたいくなります。さて、バードウォッチングは双眼

鏡があればいつでもだれでも始められます。最初は慣れた人と一緒に出かけて、鳥の名前や特徴を教わりながら観察するのがおすすめ。「愛鳥会の仲間は、人に教えるのも楽しみのうち。初心者の方は大歓迎です」と柳堀さん。
最後に、野鳥観察のマナーと心得を教えてくださいました。
「一番肝心なのは、野鳥を驚かせないこと。いたずらに驚かせて警戒されると、もうその場所に寄って来なくなるかもしれません。ですから、見ないふりをして見る。それくらいの距離

利根川河川敷のオオセツカとコジュリン

ひなが確認され、世界でも例がないことからニュースとなりました。こうした貴重なコアシサシが毎年たくさん飛来し続けるよう、大切に見守っていききたいですね。

柳堀さんの話から、波崎愛鳥会は野鳥観察を楽しむだけでなく、野鳥の調査活動や営巣地の保護活動などを行っていることを知りました。そもそも柳堀さんが野鳥に夢中になったきっかけも、神之池のビオトープにカワセミの営巣地をつくる活動をしたことだったそうです。カワセミはその美しさから「飛ぶ宝石」とも呼ばれ、バードウォッチャー憧れの鳥なのだとか。そう聞くと、いつか自分の目で見つけてみたいくなります。さて、バードウォッチングは双眼

鏡があればいつでもだれでも始められます。最初は慣れた人と一緒に出かけて、鳥の名前や特徴を教わりながら観察するのがおすすめ。「愛鳥会の仲間は、人に教えるのも楽しみのうち。初心者の方は大歓迎です」と柳堀さん。
最後に、野鳥観察のマナーと心得を教えてくださいました。
「一番肝心なのは、野鳥を驚かせないこと。いたずらに驚かせて警戒されると、もうその場所に寄って来なくなるかもしれません。ですから、見ないふりをして見る。それくらいの距離

感を保つのが理想です。もう一つ、釣り糸などが野鳥の足に絡まって死んでしまうことがあります。必ずゴミを持ち帰ることが、誰にでもできる自然保護活動だと思います。そういうことを心掛けた上で、一人でも多くの方に野鳥を見てもらい、好きになってもらうと願っています」
今回は渡り鳥(冬鳥)や絶滅危惧種を中心に紹介しましたが、これは神栖市の野鳥のほんの一部にすぎません。皆さんの身近なところにどういう野鳥がいるのか、散歩や買い物ついでに、ちよつと空を見上げて探してみませんか？

全国的にも貴重な鳥オオセツカ。利根川河川敷に生息している[ウグイス科・全長13cm・留鳥/夏鳥]